



竹林の風

令和2年度の夏休みが明けて

令和2年度の短い夏休みが明け、少しずつ聞こえてくるツクツクボウシの声は夏の終わりを感ぜさせます。「夏休みの始まりや期間」について、県立図書館のレファレンスサービスを活用しましたところ、本県では明治8年、小学校制の中で「7月20日～8月21日」の規程が確認できました。（「栃木県史 史料編近現代8」）当時から、夏休みは1か月程設定されてきたと推測しますと、正に今年は無例の夏となりました。

さて、コロナ禍の中、感染防止のための各学校の消毒作業等につきましては、これまで、適切にご対応をいただいておりますこと、まずもって感謝いたします。養護教諭の皆さんがリーダーシップをとっておられる旨、聞き及んでおります。また、給食調理業務につきましては、真夏の作業ということで、気温の高い調理場にて、食中毒防止等にも配慮されてご尽力いただいておりますこと、学校栄養士並びに調理員の皆様に心から感謝いたします。夏休みが明けましたが、各学校におかれましては市町教育委員会の指導のもと、引き続き、感染症対策について、適切にご対応をいただきますようお願いいたします。

そして、ご案内のとおり県教育委員会では、国の事業を活用し学習指導員等とスクール・サポート・スタッフの全校配置を決定しております。とりわけ、スクール・サポート・スタッフの業務は、教室内の換気や消毒などの感染症対策の内容も含まれていますので、各学校におかれましては、効果的に本事業をご活用いただきますようお願いいたします。

新任校長訪問、新採配置校訪問 -前半を終えて-

新任校長訪問ではお忙しいところご対応をいただき、ありがとうございました。各学校とも状況を的確に捉えられて、中期目標や組織目標を設定し、校長先生そして学校の強みを十分に生かして課題の解決に取り組まれておりました。その真摯な思いとご努力に改めて敬意を表します。また、管理職者として、リーダーシップを発揮するとともに、愛されるリーダーも意識されていることがお話をさせていただく中で感じることができました。

新採配置校訪問では、各学校とも教職員全体で初任者を支援するという風土のもと、大切に育てていただいていることが伝わりました。感謝いたします。そして、初任者の皆さん、訪問当日までの準備等、お疲れ様でした。同期の皆さんとはまだ繋がることできていない状況ですが、誰もが同じような悩みをもちながら日々奮闘していることと思います。周りの先輩たちに何でも相談しながら、子供たちのために力を尽くしていただきたいと思います。活躍を期待しております。

この後、訪問の後半が始まります。お忙しいところ予定校にお邪魔させていただきますが、どうぞよろしくお願いいたします。



いきいきプロジェクト(小中学校少人数学級推進事業)の最終ステージ

本県では、平成15年度に中学校第1学年で35人以下学級※1を導入以来、少人数学級によるきめ細かな指導環境の実現を推進して参りました。そして今年度、小学校第6学年への導入をもって、義務教育すべての学年で「35人以下学級」が実現しました。本プロジェクトには「少人数学級の環境により一人一人の活躍の場が増え、そこで身に付いた自信をもとに、いきいきと学校生活を送ってほしい。」という思いが込められています。今後、いきいきプロジェクトは最終ステージの充実期へと移っていきます。

前置きが長くなりました。本題です。タイトルに最終ステージとありますように、昨年度の小学校第6学年は、国の基準である「40人以下学級編制」を本県で最後に経験した児童になります。そこで、現在の中学校第1学年で、昨年度36人以上の学級を経験した生徒及び保護者、そして当時の担任を対象に「学級規模についてのアンケート」を予定しています。10月頃に抽出の形で該当校にご依頼させていただきますので、ご協力いただきますようお願いいたします。(管内市町教育委員会には、協力の承諾をいただいております。)

※1:小学校第1学年は国の基準により35人以下学級編制。小学校第2学年は、少人数研究加配を県が要望することにより実現。小学校第3学年から中学校第3学年は、少人数研究加配と県単独措置により実現。全国でも、条件設定なしで、独自に35人以下編制を実現しているのは5県(栃木県、長野県、鳥取県、島根県、山口県)。少人数指導との選択制で実施が2府県(福島県、京都府)。

教職員一人一人の誇りと品格は 教育への信頼を確たるものにする

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

学習指導要領の改訂を踏まえ、学習評価においても様々な改善が図られていますが、その基本的な方向性の一つが「必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと」となります。

一般に、学習評価における「妥当性」とは、評価結果が評価の対象である資質や能力を適切に反映しているものであることを示す概念であり、その確保のためには、評価が学習指導の目標に対応するものとして行われること、評価方法が評価の対象である資質や能力を適切に把握するものであることなどが重要です。例えば、「関心・意欲・態度」の評価については、挙手の回数や毎時間ノートをとっているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が長年に渡り指摘されてきました。それは、これらの評価結果が、学習指導の目標である「関心・意欲・態度」を適切に捉えたものではなく、「妥当性」が高いとは言えないからです。

今回の改訂では、各教科等の目標が資質・能力の三つの柱で再整理されており、目標に準拠した評価を推進するため、観点別学習状況の評価についても「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点となりました。「主体的に学習に取り組む態度」は新たな観点ではありますが、「関心・意欲・態度」と同様に、各教科等の学習内容に関心をもつことのみならず、よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度を評価するという考え方に基づいたものです。そのため、その評価においては、前述のとおり、単に継続的な行動や積極的な発言など、性格や行動面の傾向を評価したのでは、「妥当性」の高い評価とはなり得ないことに留意する必要があります。

そもそも、「主体的に学習に取り組む態度」は、資質・能力の三つの柱の一つである「学びに向かう力、人間性等」を受けた評価の観点ですが、その「学びに向かう力、人間性等」には、以下のような情意や態度等に関わるものが含まれると考えられます。



- 主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する能力、自らの思考の過程等を客観的に捉える力など、いわゆる「メタ認知」に関するもの。よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等。
- 多様性を尊重する態度と互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなど、人間性等に関するもの。

感性、優しさや思いやりなど、観点別学習状況の評価では示しきれない部分は対象外となりますが、「主体的に学習に取り組む態度」は上記のような情意や態度等を包含するものですから、その評価においては、子供たちが資質・能力を身に付けるために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を見取ることが必要となります。

子供たちが自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていくためには、生涯にわたり学び続ける必要があります。「学びに向かう力、人間性等」は、「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力をどのような方向性で働かせ、どのように人生や社会に生かそうとするかを決定付ける重要な要素であり、生涯にわたり学習する基盤を形成する上で極めて重要なものです。生涯にわたり学習する基盤を培うという大局的な視点をもったとき、「主体的に学習に取り組む態度」として評価し、育成を目指す資質・能力の輪郭がより一層明確になるのではないのでしょうか。

※「主体的に学習に取り組む態度」を含め、学習評価に関する参考資料(小学校編)が県教育委員会より出されていますので、ご活用ください。(http://www.pref.tochigi.lg.jp/m03/2020hyoukasyou.html)

職員紹介 … ふれあい学習課 石塚秀幸 副主幹です …



笑顔がステキな石塚副主幹は、思慮深さと行動力を合わせもつ、ふれあい学習課のナイスガイ。そんな彼の最大の魅力は、「地域を愛し、地域とともに生きる男」を体現しているところ。業務に関する質問に対して的確な回答はもちろん、手土産として喜ばれる河内管内の名産品や食事処を尋ねれば、人気を博すメジャーな逸品から知る人ぞ知る逸品まで幅広い情報を教えてくれます。彼のアドバイスを実践した方々は、口をそろえて「これは、間違いなし!」と、その目の確かさを実感するとともに、自ら地域の情報を収集する行動力と「地域を愛する熱い心」に胸を打たれます。また、地域住民として、近隣の学校で行われている地域学校協働活動にも積極的に参加し、学校支援やまちづくりに情熱を傾ける「地域とともに生きる男」でもあります。河内教育事務所にお越しの際は、ぜひ石塚副主幹に一言お声かけください。耳寄りな情報と明日への活力を得られること「間違いなし!」です。

今回は、文字が多くなってしまいました。失礼いたしました……。